

## 東北地区だより

昭和31年度の東北地区における気象研究発表会は先ず例年のように10月中旬に三地区の研究発表会（10月12日に宮古市において岩手宮城地区、10月19日に秋田市において秋田青森地区、10月26日に山形市において山形福島地区）を開催した。次にこれらの地区気象研究会で発表されたものの中から水文気象に関するものは12月6日（仙台）の「水文気象研究発表会」で、一般気象関係のものは12月7日（仙台）の「東北地方気象研究会」で、季節予報関係のものは12月18日（盛岡）の「東北地方季節予報研究会」で、農業気象関係のものは12月19日（盛岡）の「日本農業気象学会東北支部研究会」でそれぞれ発表され、これらを以て東北地区における昭和31年度の研究発表は殆ど完了した。

次にこれら各研究会の概要を記す。

- 1) 宮城岩手地区気象研究会（10月12日、於宮古市）  
盛岡側より発表された研究は地域の雨量関係が多く、やはり早くより手がついたので相当突込んだ優秀なものも多く、この面では全国どこかの測候所と比較しても勝れたものと考えられる。宮古測候所職員による研究は地方民生に直結するものが大部分で地区測候所のあり方として適切なものであった。
- 2) 青森秋田地区気象研究会（10月19日、於秋田市）  
業務上直接に必要な局地的な且統計的な調査が大半であったが、秋田大学の内教授による「雨滴の粒度分析について」の特別講演などもあって互に裨益する処が多かった。
- 3) 福島・山形地区気象研究会（10月26日、於山形市）  
山形・福島地区は管内に測候所が多いため研究題目も非常に多く一日でこなすには少し無理であった。題目はほぼ例年と変わりなくこちらでもっと掘下げる時期に達していると思われたが、今回は今まで研究発表をしたことのない新人が出て来たことは嬉ばしいことであった。
- 4) 昭和31年度水文気象研究発表会に検討会

（12月6日、於仙台）

このような研究、検討会は昭和28年に第1回を山形で開催し、今回は第4回目である。回を重ねる毎に内容は具体化且専門化し充実して、軌道に乗って来た感が深い。この種の会合は最近では全国的に催されるようになって来たが、一般には総花的な傾向があるが、当管区では総花的に陥らないよう出来るだけ技術本位にそして実のあるように配慮されていることは矢張り一日の長であろう。

又水の問題は最終的には雨の予報に帰してしまうが、雨の予報については別途（12月8日）の専門部会

を設けて検討しており、この会では「降った雨に対してどう対処するか」に焦点をしばって検討し、研究会の成果を上げている。

講演題目、検討事項については本文末記載。

### 5) 昭和31年度東北地方気象研究会

（12月7日、於仙台）

水文気象、季節予報、農業気象関係のものはそれぞれ専門の研究会があるのでこれらを除いた他の気象関係の研究調査について発表されている。講演題目の大半は雨を取扱ったものになっているが、当地方では北上川特定地域総合開発に伴う各ダムの完成や、水理水害業務の拡充に伴い、雨の問題が close up して来ていることは当然であろう。又当管区の研究調査方針は、業務に直結したものを重視し、個々の能力を一つの方向に向け組織の力で問題を解決しようとしており、これは力強いことだ。

講演題目については本文末記載。

### 6) 雨量予報意見交換会（12月8日、於仙台）

当地方では北上川特定地域総合開発に伴う各ダムの完成、秋田山形県の水理水害対策の施設も完了、残りの県についても32年度に予算成立の見通しもあり、又只見電源地帯の精密な水文気象の調査の進展に伴い、雨量予報サービスの飛躍的な向上を目指し、管区予報課ではこれが確立に重点を指向している現状である。こうした重点指向の一環として意見交換会が催されたもので、雨量予報に対する色々な疑問の点が斎藤氏（東管）、藤原氏（予報部）、川本氏（新潟）等の講演で可なり明解となり、益する処が大きかった。

講演題目については本文末記載。

### 7) 東北地方季節予報研究会並に

昭和32年暖候期予報検討会（12月18日、於盛岡）

この研究会は昭和28年の冷害を契機として再発足したもので、今回がその第3年である。又この研究会の維持には東北6県及び新潟県から経費上の支援があって、昭和29年には仙台に気象研究所の分室（安藤正次氏が研究官として仙台駐在）が設けられ着実な研究が続けられて来ている。従って当日の研究会には地元の岩手県知事始め各県の関係者が多数出席し、東北地方に於ける冷害に直結した季節予報が如何に切実なものであるかが伺われる。東北地方では農事計画上、前年の12月には翌年の暖候期予報を必要とし、その要望に応えるため毎年この頃に本研究会と翌年の暖候期予報の検討が行われている。

本研究会における講演題目については本文末記載。

研究発表

昭和31年度東北水文気象研究発表並に検討会

1. 秋田県積雪調査報告 秋田 測 難波 信吉
2. 吾妻、裏盤梯の代表コースについて 若松 測 佐藤留太郎
3. 積算雪量計の試作実用試験と改良について 仙台管区 吉田 作松
4. 融雪滲透量の測定とそれによる河川流出の試み 仙台管区 島田 守家
5. 昭和30年度和賀川上流(湯田ダム集水域)水文気象調査 盛岡 測 三宅 賛
6. 雨量鶴 則代表点及びハイドログラフの試作について (厂見川上流域水文気象調査) 仙台管区 吉田 作松

◎ 技術検討

1. 雨に関する測器 2. 雪に関する測器 3. 雨量観測点の代表性 4. スノーサーベーターとその代表コース又は代表点 5. 融雪 6. 流出問題 7. 一般問題

昭和31年度東北地方気象研究会

1. 昭和31年7月27日, 28日の岩手県下の最高気温について 盛岡 測 加藤 吉男
2. 岩手県沿岸地方の山火事と気象について 宮古 測 二宮 三郎
3. 羽越地方の地震活動の特徴 仙台管区 渡辺 偉夫
4. 沿岸波浪の予報(福島県沿岸におけるいわゆる沿岸高潮について) 新庄 測 佐藤 義正
5. 異常微気圧振動について 山形 測 伊藤 亀雄
6. 積雪の週期について 仙台管区 福田喜代志
7. 「冷夏型気象」とその一前兆について 仙台管区 高橋 正吾
8. 最近のイソプレット解析における二, 三の特徴的現象について 山形 測 川添 信房
9. 強風帯の移動による局地性雨の予報 仙台管区 菊池 徹夫
10. 台風進路に関する二, 三の解析について 青森 測 和田 英夫
11. 南海低気圧における福島県の降水予報 福島 測 山下 洋, 春日井 哲雄
12. 特別講演 無線ロボットについて 気象研 水野 長輝
13. 昭和31年7月22, 23日の東北北部の大雨について (秋田, 岩手県の豪雨報告) 盛岡 測 関根 勇八
14. 秋田県の豪雨について 秋田 測 荒 勝
15. 秋田県における台風による大雨について 秋田 測 酒井 一
16. 山形県の大雨について(天気図型の分類と雨量分布の特徴) 山形 測 真木 宏一

17. 青森県における雷雨性降水について

- 青森 測 百足 虎治  
 18. 福島県の雨量分布について 福島 測 鈴木 哲夫  
 19. 会津地方の雨量予報について 若松 測 真田 顕雄  
 20. 会津地方大雨の雨量予報検討仙台管区 角野 迪夫  
 21. 昭和31. 7. 14~17東北南部の大雨調査 仙台管区 佐藤 煌  
 22. 同上 若松 測 大野 栄寿

東北地方季節予期研究会並に昭和32年暖候期予報検討会

1. 太陽エネルギーの消長に関する或る宇宙的週期法則と北日本の異常凶冷について 仙台管区 松倉 秀夫 京都大学 正村 史朗
2. 大気環流の長期変動について 気研 高橋浩一郎
3. 総観的な長期予報技術とその問題点 気研(仙台駐在) 安藤 正次
4. 東北地方6月気温及び降水量と北半球各月気圧偏差との相関について 秋田 測 酒井 一
5. 本邦附近の季節の変動について 山形 測 川添 信房
6. 放射が大気の長期変動に関係すると思われる二, 三の点について(序報) 仙台管区 吉田 泰治
7. 季節予報における気温偏差現用語の基準と気温の地域性について 福島 測 梅田 三郎
8. 昭和31年3月の持続的悪天について 本庁予報部 須田 建

雨量予報意見交換会

1. 東北における雨量予報の現状と今夏季の成績 仙台管区 草野 和夫
2. 東北地方の測候所における雨量予報について 福島 測 山下 洋
3. 降水量の予想(相対発散分布と降水分布) 新潟地気 川本 敏夫
4. Small Scale の雨量予報 予報部 藤原 滋水
5. 雨量予報について 東京管区 斎藤 直輔 (東北地区編集委員高橋正吾記)

4巻3号訂正

頁	行	誤	正
3, 左	下から12	(d)	(b)
6, 左	18	$F=0$	$\chi=0$
〃	下から14	$\psi$ の分布	$\phi$ の分布
7, 左	25	$H_3(\psi, \phi)$	$H'_2(\psi, \phi)$